

がん終末期における強オピオイド使用患者の低血糖リスクを考慮した
経口血糖降下薬の中止時期の検討

がん終末期においては、食事や内服薬がだんだん飲み込みにくくなり、内服すること自体が負担になる一方で、痛みを抑えるために医療用麻薬（強オピオイド等）を内服し、その副作用を予防するためにさらに内服薬が増えてしまう現状があります。

また、もともとは糖尿病を患い、適切に血糖を下げる薬（血糖降下薬）を使用されていても、食事がとれなくなることで、血糖が下がりすぎてしまう（低血糖）可能性があると考えています。だんだんと体の機能が衰えていくなか、低血糖が起こると急変のリスクが増大することも報告されています。がん終末期において、血糖降下薬が低血糖のリスクになっているのであれば、できるだけ早期に血糖降下薬を中止することで、低血糖を予防し、さらには内服の負担を軽減することができると期待しています。

今回我々はがん終末期で、強オピオイドを使用されている方の血糖降下薬の使用状況と低血糖の発生頻度について、後ろ向きに検討する研究を企画しています。2015年6月から2016年5月までの期間に当院で14日以上入院されたのがんによって亡くなられた方のうち、医療用麻薬（強オピオイド）が使用され、かつ糖尿病の既往がある方の診療情報を収集して解析を行います。

この研究では、集計・解析に際して匿名化して情報を取り扱い、対象者の個人情報を厳重に保護しています。上記に該当する方で、この研究についてのご質問や研究協力の拒否を希望される方がございましたら、お手数ですが公立陶生病院医療技術局薬剤部岩津慎次郎（電話 0561-82-5101）までご連絡いただければ幸いです。